

カトリック

広島教区報

私たち教会の

明日を探る

代表者会議開催



会場に集まる人々

11月23日、教区代表者会議が広島カテドラル難町教会で開かれ、小教区代表、活動グループ、修道会の代表と司祭、合わせて百七十人が参加した。

会議では、五年後、十年後を見据えながら広島教区における福音宣教の方向性を探るために、熱心な討議が繰り広げられた。



司教クリスマス・メッセージ

「今日、あなたがたのために救い主がお生まれになった。」

カトリック広島教区長 三末 篤實 司教

(九月二十一日)

二〇〇五年のクリスマスおめでとうございます。みなさんとともにお祝いし、欲びたいと思います。クリスマスは神からの私たち人類に対する大きなプレゼントです。

No. 63

カトリック
広島教区発行責任者
深野耕司神父
編集者
山口道晴神父広島市中区紙屋町4-42
広島教区報局
TEL: 0825-221-6917

会議は分科会から始まり、十一の分科会ごとの部屋に別れて入った。折りの後、それぞれ小教区や活動グループで積み上げてきた意見を述べ合い、話し合いが行われた。そして各分科会で具体的な三つの提案を絞り込んでいった。

その後の全体会では、分科会から出された提案を、参加者全員で検討して代表者会議の答申が確認された。

会議は、派遣のミサで閉じられ、参加者は三末篤實司教の祝詞を受け、現場に

神は御子をこの世にお遣わしになり、救いの道、十字架の道を教えてくださいました。そして、ついには天の栄光への約束を下されたのです。私たちは、このようなクリスマスその真の意義を理解し、多くの人に伝え、本当のクリスマスをお祝したいものです。

おける福音宣教に向けて派遣された。(関連記事二三面)

新司教誕生



鹿児島教区

教皇ベネディクト十六世は十二月三日正午、パウロ郡山健次郎神父を鹿児島教区に任命すると発表した。郡山被選司教は鹿児島県奄美大島出身で六十三歳。発表当日は聖フランシスコ・ザビエルの記念日でもあった。

仙台教区

教皇ベネディクト十六世は十二月十日正午、マルチノ平賀徹夫神父を仙台教区に任命すると発表した。平賀被選司教は岩手県花巻市出身で六十歳。仙台教区の司教座は二〇〇四年五月から空位が続いていた。

平和への祈りと活動

今年には被爆六十周年の年でした。たくさんの人々が平和実現のために祈り、活動をしてまいりました。しかし、現実には世界に平和が訪れるどころか、却って不安と不幸が生じています。私たち一人一人はその現実をよく認識し、神の助け

新教皇様からの祝福

ところで、十一月七日から一週間、私はローマとドイツに巡礼いたしました。

のもと、神の子としてのあかしを立てるために最善を尽さなければなりません。私たちは年末年始を控えて決意を新たにしてまいりましょう。

積極的に参加



異方さん



ホールでの分科会

分科会からスタート

代表者会議の分科会のテーマは「平和」、「きょうどう」、「養育」の三つがそれぞれさらに細分された。

「平和」は、「身近な平和について考え、実践しよう」、「海外外国人と一緒に平和を共有しよう」、「世界平和の実現に向けて」の三つ。「きょうどう」は、「いきいきとした仲間意識の私たち教会」、「宣教協働体を育てる私たち教会」、「小規模教会・大規模教会の展望」の三



た。それは今年が被爆六十周年であったことと、故

ヨハネ・パウロ二世教皇が広島に來られて二十五周年の年であったからです。二十一名の巡礼団でした。

この巡礼の中では、故ヨハネ・パウロ二世教皇のお墓に参ることができ、またベネディクト十六世新教皇へのご挨拶もできました。本当に大きなお恵みに浴することができました。

新教皇様からは、広島教区とすべての皆さんの上に特別な祝福をいただくこと

ができました。このことを皆さんに、特にお伝えしたいと思います。

代表者会議に感謝

十一月には広島教区代表者会議を開催しました。

実行委員会を中心に、私たちは信徒・修道者・司祭一同が祈り、協力一致して準備をいたしました。そして現在の広島教区の現実を認識し、将来に向かって教区のある方を考えて、たく

さんの意見の集約を得ることができました。

全ての皆様のご協力に対し、心から感謝いたします。

今後さらに検討を重ね、具体的に実践項目を決定して、復活祭には皆様にお知らせする予定です。そしてそれらを実行に移していきたいと思っております。

新年が皆様にとって良い年でありませうと祈ります。

全体会での議決—これを教区宣教司牧評議会に提出する

〔分科会1〕 平和 (1)

「身近な平和について考え、実践しよう。」
*ミサ以外(家庭・社会)の時間で、毎日一分でも手を合わせて祈る。

宣教の自覚を持つ(祈りと徳行)のために、ミサ後分科会合の場を作る(二人一人の居場所になったり福音の教えのヒントを得る場所となったりする)。
*宣教の恵みあふれるミサの中で、祈りによる平和の挨拶を大切に。キリストと私達との命の交わりであるこの自覚を持つ。

〔分科会2A・B〕 平和 (2)

「海外外国人と一緒に平和を共有しよう。」
*J-CAMの充実、教区(司教本部)に海外外国人担当の「J-CAM」のデスクを置く、J-CAMの窓口を小教区にも置く。

*司祭・シスターの派遣：海外外国人の母国語でのミサの為に派遣を要請する。海外外国人のために自由に助けてミサをささげることの出来る司祭を各教区に配置する。
*神学生養成の過程で外国語をさせる。

*海外外国人の子女の信仰教育のための資料や教材を増やして設置する。東京のC.T.I.Cと連絡を取る。

*リーダーの養成：神父、日本人信徒、フィリピン人(海外外国人)たちのままとの為にリーダーを養成し、門前になるようにする。

*教区報(小教区報)や会議録などについて海外外国人に対してその母国語で案内する方法を検討し、実施可能な方法から行う。教区、小教区レベルで実施する。意識の共通理解、共通認識のために。

〔分科会3〕 平和 (3)

「世界平和の実現に向けて。」
*福音の精神(キリストの愛)の通り、広島教区としてこれまで以上に核兵器廃絶を世界に訴えていくとともに憲法第九条を広島教区の宝として各教会で学習を深めていく。

*「平和の使徒継承室」を中心に、今ある広島教区の平和活動組織を整理し、集約していく。
*若者たちが平和の問題に関心をもち、子どもたちの信仰教育の中に平和のテーマの内容を入れていく。

聖トマス小崎巡礼案内

広島東部四教会協賛行事として巡礼を行います。多数の参加をお待ちしております。

二〇〇六年一月二十二日
午前九時三十分から三原教会でミサを捧げた後、十一時ころ出発し本郷駅まで歩きます。伴走車あり。
本郷駅列車
上り 15時20分、15時50分
下り 15時20分、15時50分

代表者の自覚を胸に



全体会での発言



分科会が終わって



障害者もイキイキ参加



タクミの部屋でも分科会

つ。「養成」は、「受洗後の信徒養成のあり方について」、「次世代への信仰の継承について」、「キリストを中心とする信仰小共同体づくりについて」の三つ。

参加者は参加する分科会の要望をあらかじめ出し、これにしたがって振り分けられたが、「曜日外国人」と、「受洗後の」は希望者が多かったため、これを二つに分け、結局十人から二十人の十一分科会となった。

参加者は事前に十分準備をして参加しており、ある人は資料を配布するなどして積極的に意見交換を行った。

分科会には昼食をばさんで続けられ、そこで出されたさまざまな事例を三つの具体的提言にまとめ終了した。

全体会で提言を議決

分科会に引き続いて、聖堂で全体会が開かれた。

(地元広島の平和学習の充実という視点を忘れない)

(分科会4) きょうどう(1)

「イキイキとした仲間意識の私たち教会」

*組織を越えた小グループの分かち合い：青年(小中学生)、高齢者、社年など。

*ミサを話さず話した状態にする。：障害者も積極的に関わっていく。ミサの非礼を青年や障害者を持つ人などにまかせるとして積極的に参加してもらおう。多国籍語でミサをする。

*迫り立つ人の理解を深める。受け皿を準備する。

(分科会5) きょうどう(2)

「聖教協働体育てる私たち教会」

*宣教共同体に奉仕する人々の養成は急務である。

*一人一人に与えられた召命を果敢と実行できるような言葉の分かち合いグループを育ててほしい。

*共同司牧等を考慮して司祭の配分を考えてほしい。

(分科会6) きょうどう(3)

「小規模教会・大規模教会の展望」

*小教区内に様々なタレントを生かす場を作るよう努力する。(ミサ後の茶話会・小教区人材バンクの準備)

*小教区間の交流(特に子ども連)を活発に行う。(平和週、懇話会、合唱)

*お互いの情報の共有。お互いの学びあいの為に教区HP(ホームページ)を活用する。(小教区の必要な情報の公開・HP作成に関する教区レベルの研修会の検討)

(分科会7A・B) 養成(1)

「受洗後の信徒養成のあり方」

*教区の基本方針のもとに、三地区の養成プログラムを併置し実践する。：現在の山口・島根地区道者養成プログラムを教区レベルのプログラムの二つとする。

*協議する奉仕者の養成(三地区を越えた養成を図る)

(若年制から年配者を含める)

*ブロック地区・教区などでの人的交流を促進する。(情報

報の共有と三地区研修センターを活用する)(小教区の受け皿づくり)(教区としての予算化)

*山口・島根地区道者養成講座は、第二ステップにみ言第の分かち合い、第三ステップは祈りを中心とした学び、第三ステップは様々な奉仕の活動へ展開していくプログラムである。これを地区をこえて広げていきたい。

*小さな規模の小教区では、信者の生き方そのものが養成の過程そのものであることを共同体の中で分かち合うことができやすい。この共同体のあり方は大切。

*まずミサ、祈りを大切にすることが大切。そこから仕え合うことができ、愛し合う行動ができるようになる。

(司祭は説教の内容を日常生活につながる実のあるものとするように努力する)

(分科会8) 養成(2)

「次世代への信仰の継承」

*良いコミュニケーション作り：信徒同士・司祭と信徒がいろいろ関わりを持つ。小教区を超えた集まりを持つ。

*家庭の中での信仰：信仰継承の中心は両親・家庭である。祈りの姿を見せる。家庭祭壇を作る等家庭の中で取り組んでいく。

*リーダーの養成：教会学校におけるリーダーを育てる。終身助祭について検討する。

(分科会9) 養成(3)

「キリストを中心とする信仰小共同体づくり」

*地域差のある中で各小教区は次の三点に重点的に取り組む。

*キリストを中心とした信徒養成プログラムに従って小共同体づくりに取り組む。

*第二パチカン公会議の教会憲章を再確認し、信者(司祭・修道者・信徒)はもう一度学習して取り組む。

*信仰の喜びがもたらす生活が出来るような小共同体づくりに取り組む。

皆を次のように説明した。

「各分科会が出された提案をいかに軌道に乗せ、実践していくかがこれからの取り組みである。そのため前向きで、実践につながる話し合いをしたい。」

議事は、分科会の案発表、補足説明の後、質疑・討議、提言の決議の流れで進んだ。

右の囲み記事がその決議で、その取り扱いについては、四面参照。

まず代表者会議実行委員長

長の祇山(かみやま) 登喜

ん(真教会)が全体会の趣

信仰イキイキ 新しい出発

— わたしを遣わしてください —

代表者会議以降の取り組み確認

司教、「新たな出発」強調

全体会の最後に、実行委員長は代表者会議以降の進め方について次のように説明した。

「まず、十二月と来年三月の教区宣教司牧評議会で総合的な方向性を打ち出し、それを受けて復活祭に

司教の最終宣言を出してもらう。その方向性に基づき、教区レベルの研究企画チームづくり、具体的な施策を打ち出していく。」

また司教は、「今日がおしまいではない。今からが出发点である」と挨拶し、

二〇〇六年教区年間テーマ決まる 教区宣教司牧評議会で

十二月十一日、教区宣教司牧評議会が開かれ、二〇〇六年の教区年間テーマが決定された。

また、教区代表者会議の決議事項の扱いについて討議され、代表者会議実行委員会が整理したものを各地区の宣教司牧評議会に下ろし、ここからの意見を集約して三月の教区宣教司牧評議会ですまると、司教に答申することになった。

教区年間テーマ

広島教区の

年間テーマは教区代表者会議が決して終わりでなく、出発点であることを意識し、提言の具体的実行に向け

て、「新たに出発する決意」を表明するテーマが決定された。

また、評議会では、その他二〇〇六年は「フランシスコ・ザビエル生誕五百年」、「教皇来広二十五周年」に当たるということで、これをテーマにするという案も出されたが、代表者会議

派遣ミサをもって代表者会議を閉会した。



派遣ミサには青年も協力

の流れを大切にするということに集約された。

代表者会議

決議事項の取り扱い

代表者会議実行委員会から、「代表者会議の決議事項」と「教区司祭大会」、そして「山口島根地区司祭団からの提案」をもとに九つにまとめた「広島教区の方向性についての中間報告」が提出された。教区宣教司牧評議会では、これを小教区や各会議で出された意見ができるだけ伝わる形に手直した上で、これを各地区の宣教司牧評議会に下ろし、意見を聴いた後、更に整理をして司教に答申することにした。

海峽からの風1

下関市立教育センターより

●とにかく集まる人々が多彩で楽しい。ざつくばらんで、「所長」なんて肩書きが音を立てて崩れそうな神父。平和ウオークを主宰する温和な医師。音楽に乗って、つい踊ってしまう憲法学者。お国自慢の鍋で交流するアジアの留学生。無農薬野菜を届ける人。平和の鐘しを記録し映画を作る人。プロテスタントの牧師たち。●下関の絶景の見晴らしと、海峽からの風が心地よいところに、「下関労働教育センター」はある。●「社会司教」の実現のためイエズス会によって運営されているここは、広島教区の施設の中でも特殊な存在だろう。●市民と関わってきた社会問題も多彩だ。労働者の権利、民族・子どもの人権、原発、従軍慰安婦、東チモール、在日外国人、戦争と平和の問題、市民生活を考えるフォーラムなど●集う市民にとってセンターは会議や集会の場であり、会報などの発行所にも

なり、メンバーと楽しく食事分かち合う憩いの場にもなる。●福音をどうのべ伝えるかでも信仰の有無を越えて、ともに社会問題に取り組むことにより、結果として福音を証しているのかなあと思う。●人と人が知り合うことが難しくなった現代、違う目的で集った人たちがまた新しい人の輪を創造していく。センターは「出会いの祝祭」の場だ。

（瀬江教区・廣崎隆二）
（行事予定）

十二月十日 市内市立大学長
「下関市立大学の法人化について」
一月十五日 市民フォーラム「都市宣言」



ガリテヤの家訪問

十一月二十八と二十九日に、西江神父（教区事務局長）と関神父（観音町）は、東京カトリック神学院ガリテヤの家（栃木県那須）を訪問した。ここは司祭養成のための初年度の研修施設で、共同生活をおとして協同性を養い、神学院（東京）での研究に必要な基礎的な勉強（新・旧の聖書および公会議文書の通読、英会話）を行っている。関にあ

る知的障害者福祉施設（マ・メゾン光星）での作業もプログラムに含まれる。現在二人の指導者の下で三人が研修中である。その内二人は広島教区からのトゥアンさんとヤンさん（ベトナム出身）で、その視察が今回の第一の訪問の目的であった。関神父にとっては日本の司祭養成の現場を知りたい機会となった。

「ガリテヤの家」

St. 春日 聖子

「外国人が暮らしやすい社会は日本人にも暮らしやすい」とあるように、私は子どもたちと関わりながら、又、外国籍の方たちと関わりながら、最近益々、この事を感じている。出来るなら日本を離れて、何処か外国へ逃げ出したい気分になる時がある。日本人さえ、住みにくい日本社会で、どうして言葉、文化、習俗の壁、などの有る外国籍の人々が住みよい社会と言

えるのだろうか！ 数年前に初聖体をして良い子だったのに、小学校はなんと卒業したものの、いじめに遭った為に中学校はほとんど行かず、転校しても馴染めず、親のいない家の中で何が起るのか、言うに及ばないだろう。家の中では満たされず、外に出る、遊び、お金がほしい、万引き、引ったくりとエスカレートする。こんな子どもだけではない。なんとも厭やかで、楽しくて、叱ることも多いが笑う事が多く、遊びを楽しむ事も多い。先日も備後運動公園で鬼ごっこをし

て、私が鬼になった。今ぞとばかりに「鬼婆こつち、こつち」と逃げ回るのを追いかけてながら、いい気分になるのだ。そう言った子ども達を捕まえた時の快感は、何にも代え難く嬉しい！ 確かに、日本人の中で嫉と言われることを、彼らにそのまま要求することは難しいと感じる。形からの嫉より、意味からの嫉に彼らはピンと来るように思われる。それは、血の中に入っている、神觀念によるのだろうか！ 二〇〇六年二月二十五日に行われるセミナーに是非御参加ください！

広島学院創立50周年を祝う



広島学院中学校・高等学校（広島市西区）は今年創立50周年を迎え、関係者によって盛大に祝い、神に感謝を捧げた。

カトリックの雑誌 ②

『家庭の友』

「道・真理・いのち」であるイエス・キリストを世界に。この言葉は、聖パウロ修道会の創立者ヤコブ・アルベリオーネ神父が、生涯を通して考へ、使命としました。彼はこの実現のため、その時代の最も効果的なマスメディアによる手段を活用しました。

現在、創刊から五十六年がたちました。いつもその時代の「家庭」に関する話題にスポットを当てて、種々のテーマに取り組んできました。その中でも、本年は被爆六十周年ということもあり、「平和」にスポットを当てました。八月にはイスラエルとパレスチナの高校生が来日し、彼らと行動を共にしながら東京・広島・長崎での密着取材を試みました。高校生たちが、それぞれの都市で感じたことをインタビューしながら、生の声を取り上げてみました。また「家庭の友」の特徴として、一九七一年から始まった「モンテッソーリ」関連のページ。この中に、日本の教育の変遷をかいま見ることが出来ます。

創刊の精神とその時代のホットな話題の探求。「道・真理・いのち」であるイエス・キリスト」を日本の多くの人々に伝え、浸透させていくことを願いながら、編集に尽力しています。

日韓学生交流会

二月二十三日から二十七日まで、広島カトリックを中心として日韓学生交流会が開催され、双方から二十名ずつの学生が集う。この交流会は、日韓の司教団からの提案で一九九七年に始

まり、日本と韓国で交互に毎年開催されて今年で十二回目となる。広島での開催ということから、テーマは「平和」。歴史的な加害と被害という、日韓双方にとって微妙であり、かつ非常に重い問題に取り組み。そして、彼らが未来に向かっての平和な交流をどのようにつくり出すのか、期待される。

交流会の中では、ゲームやそれぞれの国の特徴を持たせた出し物を通して交流を図る。また、松浦司教の講話や、原爆資料館、碑めぐりなどの体験学習をもとに、それぞれのことばで一つの平和アピールを作ることに挑戦する。

そして、四日目の二十六日は「故教皇ヨハネ・パウロ二世来広記念の平和行事」がカテドラルで行われ、そこで体験発表や平和アピールの発表を行なう予定。

教皇来広記念

二月平和行事

ヨハネ・パウロ二世の広島訪問と平和アピールを記念して始められた二月の平和行事が二十六日、広島カテドラルで行われる。九時

信仰のエネルギー源

信仰詩歌集発行

教区代表者会議実行委員会は、信仰をテーマにした短詩型文学作品を募集し、信仰詩歌集「風が吹いたり雨が降ったり」を発行した。近日中に各小教区に配布される予定。



田舎司祭の雑感

津山教会

ヴァン・デ・ワール神父

何でもいから文章を書いて下さいと頼まれました。

あまりインスピレーションの湧かない方だし、何の専門もない、何でも売っている何でも屋さんのように思いついたものを書いてみましょう。

先日、広島で十一月



二十二日の司祭大会と二十三日の教区代表者会議に預かる恵みをいただきました。津山教会にも、滞日外国人がかなり多くいます。それで分科会テーマの中から「滞日外国人との平和共有」を選びました。司祭達も教区代表者もその問題について面白い意見や体験を分かち合っただけで非常に参考になりました。特に皆さんも子ども達の宗教的教育を心に掛けていくことに感心し

ました。津山の事を言えば、今は二百人以上のブラジル人、何十人かのフィリピン人とペルー人が特に町の郊外に住んでいます。毎月一回ポルトガル語のミサを捧げますが、かなりのグループを集めることができるので、大きな喜びを感じます。でも、先日のように皆に連絡しても誰も現れなかつた時は何回も誰かが誰かの下に集めるように、エルサレムの子らを集めようとなさったイエスの嘆く姿を思い起こしました。

「エルサレムに近づき、イエスはその都のために泣いて、言われた、もしこの日に、お前も平和への道をわきまえていたら……」しかし今は、それがお前には見えない。(ルカ一九・四一、四二)

それにしてもイエスは頑強って下さいました。厳しく判断してはいけなさと解っています。なぜなら彼らはよく日曜日、クリスマスの日さえも働かされます。会議の時に二人の外国人も立派な証を立てました。一人で出しゃばらないうでもっと外国人の協力を求めなければならぬと痛感させられました。



待降節中、教会とともに待ち望んで来た救い主キリストは、今日私たちの中にお生まれになった。この喜びが一人一人の祈りと行いを通して、身近な人から世界へと拡がり、混迷する世界に真の平和の光がもたらされますように！長い間準備され、討議された代表者会議の成果も、この流れの中で実践に移されますように！